

ESG経営を目指すBコープの社会的意義と動向

鈴木 勘一郎 CMA

目 次

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. はじめに | 4. ベネフィット・コーポレーションの動向 |
| 2. ステークホルダー中心主義とBラボ | 5. 国内Bコープ企業のケース |
| 3. Bコープの動向 | 6. おわりに |

社会や環境に対する企業の貢献を高める手段として、世界でBコープやベネフィット・コーポレーションが注目されている。Bコープは経営認証制度を通じて法人形態を変えずにESG経営を実践する方法であり、ベネフィット・コーポレーションは株主とその他ステークホルダーの二重目的を新たな法人形態によって達成するものである。本稿は、それらの背景や内容を概観するとともに、日本のBコープの取り組みを紹介する。

1. はじめに

現代においては、環境や社会へのインパクトを考慮した「サステナビリティ（持続可能性）」「SDGs」「ESG」などの概念が大きな注目を浴びている。それは足元で起きている米国対中国という政治的・経済的な対立や、ロシア・ウクライナ間の軍事的・社会的な対立にもかかわらず、投資家や経営者にとってますます重要な役割を果たすようになっている。

歴史的に金融の分野では、サステナビリティ主

導の投資の追求は倫理的な動機によってなされ、財務パフォーマンスとは直接的に結びついてはいなかった。しかし、近年はESGの観点から、投資家や経営者の双方が積極的にサステナブルな活動を支援・実践するようになってきている。ESGは環境（Environmental）、社会（Social）、ガバナンス（企業統治：Governance）を重視するという概念であるが、その観点で投資対象を選別する投資が「ESG投資」であり、従来の財務的基準に加えて当該企業のESGに関わる非財務的情報を投資決定基準とした投資方法である。ESG投資が増



鈴木 勘一郎（すずき かんいちろう）

立命館アジア太平洋大学（APU）国際経営学部名誉教授、(株)GNIグループ取締役・執行役CFO、(株)エコリング顧問。1978年早稲田大学政治経済学部卒業後、野村総合研究所入社。2001年Gene Networks, Inc.（現GNIグループ）を創業。2009年よりAPU教授。1983年米国州立ノースカロライナ大学ケナンフラグラールビジネススクールMBA取得、1995年米国スタンフォード大学フーバー研究所客員研究員、2008年早稲田大学アジア太平洋研究科博士後期課程修了。博士（学術）。専門は組織論、リーダーシップ論、ESG経営。